



JAPANESE A1 – HIGHER LEVEL – PAPER 2
JAPONAIS A1 – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 2
JAPONÉS A1 – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 2

Monday 8 November 2010 (morning)
Lundi 8 novembre 2010 (matin)
Lunes 8 de noviembre de 2010 (mañana)

2 hours / 2 heures / 2 horas

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Answer one essay question only. You must base your answer on at least two of the Part 3 works you have studied. You may include in your answer a discussion of a Part 2 work of the same genre if relevant. Answers which are not based on a discussion of at least two Part 3 works will not score high marks.
- You are not permitted to bring copies of the works you have studied into the examination room.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Traitez un seul sujet de composition. Vous devez baser votre réponse sur au moins deux des œuvres de la 3^e partie que vous avez étudiées. Le cas échéant, vous pouvez inclure dans votre réponse une discussion sur une œuvre du même genre littéraire étudiée dans la 2^e partie du programme. Les réponses qui ne sont pas basées sur au moins deux des œuvres de la 3^e partie n'obtiendront pas une note élevée.
- Vous n'êtes pas autorisé(e) à amener des exemplaires des œuvres que vous avez étudiées dans la salle d'examen.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Elija un tema de redacción. Su respuesta deberá basarse en al menos dos de las obras estudiadas en la Parte 3. Se podrán hacer comentarios sobre una obra de la Parte 2 del mismo género, si fuera necesario. Las respuestas que no incluyan una discusión sobre al menos dos obras de la Parte 3 no recibirán notas altas.
- No se permite traer a la sala de examen copias de las obras estudiadas.

次の問題から一つを選んで、エッセイ（小論文）を書きなさい。エッセイを書くにあたっては、授業で学習した Part 3（ジャンル別の部門）の中の、少なくとも二作品に言及しなさい。なお、Part 3 の作品に加えて、Part 2（精読の部門）の同じジャンルの作品を扱ってもよいが、あくまでも Part 3 の作品を主にしてエッセイを書くこと。

物語・小説

1. 文学作品では、狭い空間や広い空間など、さまざまな種類の空間が舞台となっています。あなたの学んだ作品では、作者は空間の設定の仕方にどのような工夫をしていましたか。またそれはどのような効果を生み出していましたか。
2. 文学作品において、主人公は種々の変化を遂げますが、その変化の原因となったものや人にはどのような特色がありましたか。またそこには作者のどのような考え方が現れていますか。

随筆・評論

3. あなたの学んだ文学作品では、人生を豊かにする要素についてどのような考えが示されていましたか。またそれはどのように表現されていましたか、論じなさい。
4. 「作家自身の経験や体験は、作品に影響を与える」という考えについて、あなたの学んだ文学作品から例をあげて論じなさい。

詩歌

5. 詩歌には「余情（ある行為や表現の目に見えない背後に、なお深く感じられる風情）」が良く表現されます。あなたの学んだ作品から具体例をあげて、その効果について論じなさい。

6. 作者は属目（^{しよくもく}実際に目に見えること）と心象（心に浮かぶ姿や像）のイメージの使い方にどのような工夫をしていますか、またそれはどのような効果を生み出していますか。両者の例をあげて、比較しながら論じなさい。

戯曲

7. あなたの学んだ作品において、作者は戯曲の構成にどのような工夫をしていますか。またそれはどのような効果を生み出していますか。

8. 登場人物は多くの場合何らかの悩みを抱えています。作者はその悩みをどのように表現していますか。またそこには作者のどのような考え方が現れていますか。

一般的設問

9. 生活環境の変化（結婚・転居・転職・死・破産等）が、登場人物に大きな影響を与える場合があります。そこにはどのような特色があり、作者のどのような考え方が表現されていますか。

 10. 「何かに情熱を持つことは大切だ」という考え方があります。あなたの学んだ作品から例をあげながら、この考え方について論じなさい。

 11. あなたの学んだ作品において、作者は現実を認識することの難しさをどのように捉えていますか。またそれをどのように表現していますか、論じなさい。

 12. 文学作品における言語の果たす役割について、あなたの学んだ文学作品から例をあげながら論じなさい。
-